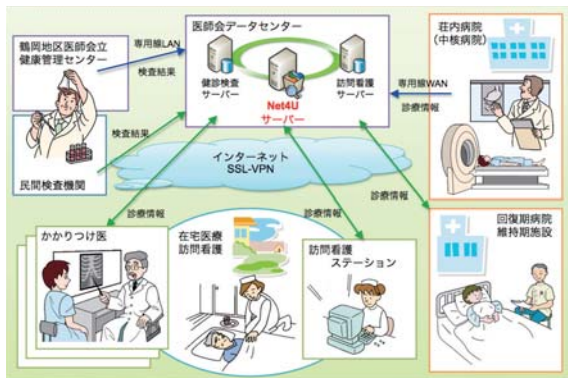


山形県鶴岡地区医師会 地域電子カルテシステム 「Net4U」

鶴岡地区医師会 副会長
三原 一郎
(みはら いちろう)

Net4Uのシステムのしくみ

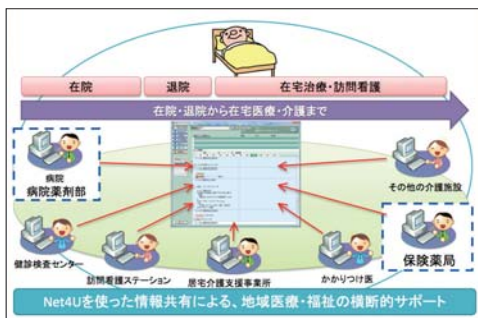


病院、診療所、訪問看護ステーションなどがNet4Uのサーバを介して連携し、情報共有によって質の高い医療を提供している

Net4Uの主画面



在宅医療におけるNet4Uの活用



一施設、検査部門は医師会立の他、民間検査会社3社である。医療機関における参加率は約30%。2000年の運用開始以来、登録患者は2万人を越え、複数の医療機関で情報が共有されている患者数は4400人におよぶ。

当初、Net4Uは中核病院と診療所間での病診連携を支援するシステムとして期待されたが、病院での利用が思うように進まず、むしろ在宅医療で活用されている。在宅医療においては、訪問看護師の役割が大きいが、在宅主治医と訪問看護師とがNet4Uで情報共有・交換することで、相互の連携が密となり、在宅医療の質的向上に寄与していることが実証されている。また、在宅医療においては、主治医と訪問看護師との連携のみならず、主治医不在時の連携医、急変時の後方病院、さら

にはケアマネジャー、各種老人施設、居宅サービス施設など介護・福祉系との連携も必要となる。すなわち、在宅医療においては、多職種が連携し、地域ぐるみで患者の生活を支える体制が望まれる。そのためには、患者の情報を共有しつつ、簡便に情報交換できるツールが求められ、その役割を担っているのがITであり、Net4Uであると考えている。このような観点から、当地区では、Net4Uを医療施設のみならず、ケアプランセンター、調剤薬局、介護老人保健施設、特別養護老人ホームなどにも拡大し、薬局・介護系への連携も模索しているところである。

患者を地域全体で支えるツールとして地域連携パスが注目されている。パスの理念であるアウトカム(治療方針、目標)を地域で共有し、チームでパスを運用することで、より質の高い医療や介護の提供が期待されるからである。当地区においても、06年より大腿骨近位部骨折連携パス、08年より脳卒中連携パスを運用している。当地区の特徴として、パスをIT化していることが挙げられる。ITパスの仕組みは、Net4Uと同じく、セキュリティーを確保したインターネット回線を利用し、医師会に設置したサーバでオーバービューパス情報を共有するというのも

地域連携パスとNet4U

患者を地域全体で支えるツールとして地域連携パスが注目されている。パスの理念であるアウトカム(治療方針、目標)を地域で共有し、チームでパスを運用することで、より質の高い医療や介護の提供が期待されるからである。当地区においても、06年より大腿骨近位部骨折連携パス、08年より脳卒中連携パスを運用している。当地区の特徴として、パスをIT化していることが挙げられる。ITパスの仕組みは、Net4Uと同じく、セキュリティーを確保したインターネット回線を利用し、医師会に設置したサーバでオーバービューパス情報を共有するというのも

患者を地域全体で支えるツールとして地域連携パスが注目されている。パスの理念であるアウトカム(治療方針、目標)を地域で共有し、チームでパスを運用することで、より質の高い医療や介護の提供が期待されるからである。当地区においても、06年より大腿骨近位部骨折連携パス、08年より脳卒中連携パスを運用している。当地区の特徴として、パスをIT化していることが挙げられる。ITパスの仕組みは、Net4Uと同じく、セキュリティーを確保したインターネット回線を利用し、医師会に設置したサーバでオーバービューパス情報を共有するというのも

患者を地域全体で支えるツールとして地域連携パスが注目されている。パスの理念であるアウトカム(治療方針、目標)を地域で共有し、チームでパスを運用することで、より質の高い医療や介護の提供が期待されるからである。当地区においても、06年より大腿骨近位部骨折連携パス、08年より脳卒中連携パスを運用している。当地区の特徴として、パスをIT化していることが挙げられる。ITパスの仕組みは、Net4Uと同じく、セキュリティーを確保したインターネット回線を利用し、医師会に設置したサーバでオーバービューパス情報を共有するというのも

DATA

鶴岡地区医師会

会長 中目 千之
副会長 三原 一郎 土田 兼史
理事 鈴木 伸男、竹田 浩洋、瀧岡 壽英、
斎藤 慎、伊藤 末志、石原 良、上野 欣一、
五十嵐 裕、福原 晶子、中村 秀幸、
上野 寿樹、横山 靖
監事 斎藤 憲康、本田 学、小野 俊孝
議長 黒羽根 洋司
副議長 渡部 隆二

ITはそれを上手に利用することで、とくに在宅を中心とした、地域ぐるみの医療、介護の質的向上に寄与できることは、Net4Uの9年におよぶ運用で実証できたと考えている。一方、課題も少なくはない。そのひとつは、参加医療機関に限られることである。Net4U参加医師は一般に志が高いことが経験上分かっているが、誰でもが普遍的に参加できるようにするには、どんなインセンティブが必要なのか、IT以前に顔の見えるネットワークが必要となるが、そのためにはどのような取り組みが必要なのか、真の意味での普及にはまだまだ課題が山積している。